



No. 337

発行

天理教山口教務支庁

〒754-0001

山口市小郡上郷1569番地1

TEL 083-972-5004

FAX 083-972-5003

MAIL kyomu@honey.ocn.ne.jp

2月本部お勤め時間

日	朝	夕
1～15	7:00	5:30
16～28	6:45	5:45



はじめのことば

主事 集会員

今西陽一



先日のことですが、神殿でも
う40年来となる恩師と立ち話
をしました。

先生は、「日本の未来予想」と
いう論説をお話し下さいました。
立ち話だったので、教会に戻
り、その内容を読ませていただ
きました。

内容は、人口減少による10年

後20年後30年後の日本につい
てです。

現在秋田県の人口減少率は
日本の最高というもので、今の
秋田県が20年後の日本のモデ
ルになると早期の対策を述べて
いるものでした。2045年には秋田
県の人口は現在の90万人から
41パーセント減少となりおよ
そ60万人。その内65歳以上が
半数になると国立社会保障人口
問題研究所が試算を出していま
す。

ちなみに日本の直近の話で
すが、昨年話からです。

2018年では75歳以上後期高齢
者の人口が「65歳～74歳まで」
の高齢者の人口を上回りました。

また18歳人口が大きく減少し
始めます。

2020年女性の過半数が50歳に
突入します。益々少子化に向か
います。2022年には団塊の世代が
75歳以上に突入します。

2060年までには300万人から400
万人の人口が減少するとも書い
てありました。

国は早急に何らかの手を打
たないとこの国が成り立たなく
なると警告する内容でした。

山口県も現在の人口138万人
が秋田県の人口推移に合わせる
と2045年には86万8000人となり
ます。

本教におきましてもようば
く数の減少は顕著であります。

これまでの活動を見直し抜
本的な変革をしていく必要が迫
ってきていると考えます。
一方この国には人口増加の
現象が起っている部分もありま
す。

様々な心のアクシデントか
ら起る活動停止状態。いわゆる
ひきこもり・不登校です。

私はこのたび本部定時集會
で布教部と社会福祉課に一般質
問をさせていただく機会を頂き
ました。この国の人口減少と本
教ようぶくの減少は比例してい
ます。ところが前に示した部分
は年々増加の傾向にあります。
そして親御さんはこの事が原因
となり夫婦でのめ事に発展し、
家庭が崩れていくケースも多く
あります。不登校やひきこもり
には全て家庭があります。対象
の家庭を考えたときおたすけ対
象者は全国で100万人にもなり
ます。

山口県でも不登校児童生徒

1500名ひきこもり数2万人と統計されていますがそんな数字ではありません。3人家族として

計算すると、おそらく30万人がたすけの手を待っていると思います。

このことから、本教の具体的な取り組みが見えてくるように思います。何か打開策を考える時期が来ているように思いました、おたすけの具体案として提示させていただくつもりです。

真柱様は教祖百二十年祭に向けて諭達第三号の中に

『おたすけは周囲に心を配ることから始まる。身上・事情に苦しむ人、悩む人があれば、先ずは、その治まりを願い、進んで声を掛け、たすけの手を差し伸べよう。病む人には真実込めておさづけを取り次ぎ、悩める人の胸の内に耳を傾け、寄り添うとともに、をやの声を伝え、心の向きが変わるようにと導く。更には、共に人だすけに向か

うまでに丹精したい。』とおたすけの心構えを御諭し下さいました。

私たちようぼくの勤めは、教祖から戴いた尊いおさづけを取り次がせて頂くのは最も大事なことでありますが、おさづけを取り次がせて頂くまでの経過があるように、心の問題は実にデリケートな所でもあり関わり方を誤れば相手を一層傷つけてしまいかねません。

そのようなことから相手様に安心して頂けるまで寄り添うことが大切ではないでしょうか。教内がおたすけを具体的にかつ目的を持って取り組めるよう技術力を身につけるための研修やひのきしんスクールを通し実際に相談が出来る受け皿を拡充して頂きたいと願っています。教祖がお示し下されたひながたは時代が変わろうが絶対に不変のものであります。その中で時代の変化とともにおたすけの方法

取り組み方、考え方を時代に合わせなければならぬかと考えます。

一つの提言がヒントとなり教内が明るく勇んで前に進めることを願っています。

修理巡教について 後藤成実先生 2月御巡教日程【厚狭野支部】

15日 (金)			陽ノ海 分 14:00~	長厚 分 15:30~
16日 (土)	吉乃厚狭 分 9:00~	天意 分 10:45~	長千恵 分 13:30~	龍王町 分 15:00~

道の教職員の集い

山口教区道の教職員の集い

秋の研修会

山口教区道の教職員の集い秋の研修会が、11月24日から26日の2泊3日で行われました。今年で3回目のこの会場所は昨年に引き続き京都で、宿泊先は有名な清水寺の近くの京城大教会でした。6名の集い参加者が1台の車に乗り、京都まで高速道路を利用し移動しました。車中や宿泊先では、それぞれの近況報告や悩み、集いのあり方や信仰の話などで盛り上がりしました。

野外研修では私鉄や地下鉄、バスを利用し、二条城や東寺、高台寺に出かけました。天候にも恵まれ、秋の紅葉や歴史と伝統の文化遺産を堪能しました。特に二条城では大政奉還の間や



見事な松や花、鳥などの障壁画と庭園、また高台寺では夕方の美しい紅葉をバックに心ゆくまで楽しむことができ、印象的でした。

最終日26日には天理に向かい、本部月次祭を参拝し、中田善亮先生の祭典講話を聞いて一路山口に帰りました。

とても有意義な充実した研修会となりました。

記・石丸真一

福祉厚生部

ひのきしんスクール講座

「高齢者支援」

11月29日、教務支庁を会場にひのきしんスクール「高齢者支援」が開催された。3人の講師にお越し頂き有意義な時間を過ごした。受講者は45名。

○受講者の感想文より

高齢者が増えていく中、2025年には認知症の人が70万人にも



なるそうです。私の母も2年半程前からパーキンソン病レビー小体型認知症、骨粗しょう症で介護を必要とするようになり、どの様に対処したら良いのか分からない事がいろいろありました。

今回のひのきしんスクールを受講して具体的な事を学ばせて頂き、とても参考になりました。今回学んだことを家族や身の回りの人達と共有して、母と接する時、又高齢の方と接する時に役立たせて頂こうと思います。

平成三十年代

美祢社会復帰促進センター

年頭平和祈願祭

去る1月14日(祝日)、山口教区福祉厚生部 教誨師会は、美祢社会復帰促進センター(美祢市)において年頭平和祈願祭を執り行わせていただきました。当センターは、「国民に理解され、支えられる刑務所」という理念の



下、国民・地域との共生による運営を行い、多様で柔軟な処遇が可能であり、可塑性に富んだ初犯受刑者を収容する施設です。そのセンターで、昨年に引き続き今年も、午前10時から女子体育館、午後1時から男子体育館にてつとめさせていただきました。

祭儀式では、善本廣海(山口刑務所教誨師)祭主のもと、祭儀を執り行い、親神様に、センターにおいて受刑者の更生を図り社会復帰できるように、また

御教え通りに心のほこりを払い、「人をたすけて、我が身たすかる」の教えを守り、この世が一日も早く陽気ぐらしの世の中になるようにと祭文を奏上いたしました。その後、美祢社会復帰促進センター職員代表、センター生代表に参拝していただき、祭儀式の後は、座りづとめをとめさせていただきました。

山口教区として、この祈願祭には福祉厚生部が中心となり、教区主事、婦人会、天雅会等、約 20 名の方々にご協力をいただきました。

教祖がご在世中のことを思えば、公の場所でも公然としておつとめをつとめることができ、しかも、春季大祭というゆかりのある月に社会復帰を促進する場所ですとめることができましたのは、言い知れぬ思いを感じずにはいられませんでした。

記・徳田耕一郎

教務支庁

年末清掃ひのきしん

去る 12 月 6 日、恒例の教務支庁年末清掃ひのきしんが行われました。災害隊を中心に、支庁内のエアコンフィルターの水洗い、サッシ、網戸、また別館の隅々など、普段手の届かないところまで綺麗にして頂きました。雨でお足元の悪い中にも関わらず各支部より 46 名の御参加を頂き、皆様のご真実により午前ですべて終了いたしました。教内外から多くの方が来庁される施設として恥ずかしくないよう、これからも綺麗に維持したいと思えます。ご協力ありがとうございました。



お出直し

○藤井理一さん 享年八十才
柳洋分教会長

(柳井支部・周東)

一月五日

教会事情

○任命願

周央分教会

(新) 小林 勇



(周徳支部・神崎)

奉告祭 立教 182 年 3 月 13 日

※休館日 2 月 12 日 (火)

法人関係

○境内地及境内建物拡張承認願
岩錦分教会

(岩国支部・周東)

○特命代表役員任命願

福岡分教会

(下関支部・神崎)

○宗教法人合併承認願

福岡分教会を福川分教会に

教務支庁日誌

【1 月】

9 日 布教部企画会

13 日 青年会委員会

14 日 学生担当委員会例会

年頭平和祈願祭

(美祢社会復帰促進センターにて)

19 日 教職員の集い例会

20 日 わかぎスクール

27 日 教区長会議

29 日 布教者研修会 (30 日)